

給食センターの整備に向けて

本市では、心身ともに成長期にある中学生に、栄養バランスに配慮した給食を提供し、食育を推進することを目的として、平成30年度中の市内全中学校における完全給食実施に向け、針木・長浜の2カ所に給食センターの整備を進めています。

問 給食センターの運営方法について聞く。

答 学校給食の調理業務を民間委託する場合には、
①保健所の営業許可が取得可能であること
②真空冷却機の設置があること
③栄養教諭等の配置があること
の3条件を定めており、民間委託ができる学校については、順次進めている。

今回整備する2カ所の給食センターは、この3条件を満たす施設になると考えている。

休憩室



10月、さすがに朝夕冷たく感じられる季節の到来。そんな気持ちのいい日曜日の朝、早速高知新聞を開きました。お目当ては川柳のコーナーです。

今朝の一句。もう一人私が生まれるマイナンバー。折しも国民全員に12桁の番号を付けるマイナンバー制度の個人通知が始まります。

西川富恵先生の選評をご紹介します。「10月のある日、突然もう一人の私が訪ねて来た。12桁の番号を持つ世界で只一人だから迷わず来る事ができたという。その私は社会の公平の為だと言うが、私の忘れた事まで全て知っていてそれを基に一生管理する積りらしい。平成28年から同居するのだと嬉しそうである。自由を奪われそうな不安で今私はこのもう一人の私にどう向き合えばいいのか途方に暮れるばかりである。」市民の皆さま

して設置する。

また、昨年12月の実施検討委員会からの報告もあるため、災害時の炊き出し等の対応が可能となるような機能を整備したい。併せて、市内の大半の小中学校が浸水に遭う可能性があるため、その際のバックアップ機能も持たせたいと考えている。

問 給食センター建設に当たり、他の部局との協議について聞く。

答 防災対策部のほか、健康福祉部、農林水産部、都市建設部の関係職員が実務検討委員会および作業部会の委員になっている。

作業部会では、防災機能をはじめ、多様な食数への対応、学校の配膳室や備品、使用する食器、アレルギー対応などの課題解決について検討しており、必要に応じて関係者からも助言を

の感想はいかがでしょうか。

あかるいまち10月号に詳細が載っていました。中旬には通知カードが届きます。そして希望者には通知カードと交換で個人番号カードが交付されます。赤ちゃんからお年寄りまで生涯にわたって使用されるマイナンバー。この12桁の数字が、一人一人の人權、幸せを保障するための番号であってほしいと願った日曜日の朝でした。

(議会広報委員 岡崎邦子)

得ている。

また、県や庁内関係部署との具体的な検討を重ねていくこと

子育て支援の充実を

子どもの医療費

問 子育て世帯の経済的負担の軽減策として、子どもの医療費助成の拡充について聞く。

答 子育て世帯については、できるだけ経済的負担を減らしていくことが重要である。子どもの医療費助成については、本市の総合戦略の中で、平成31年度までに現行制度より拡充するという目標を設定している。

仮に、中学校卒業までの児童生徒を全て対象にした場合、新たに毎年7億円の一般財源が必要となり、相当の財政負担が生じる。

今後5年間で、段階的に拡充することを想定しているが、助成対象を小学3年生まで、6年生まで、中学3年生までとする例が考えられ、平成28年度予算編成の中で調整しなければならぬと考えている。

子育て支援員

問 子育て支援分野の人材確保策について聞く。

答 子ども・子育て支援新制度において、人材育成と確保が

で、中学校給食のスムーズなスタートが切れるように努めていきたい。

重要なことから、国は地域の子育て支援拠点や放課後児童クラブ、小規模保育事業などの業務に従事する子育て支援員制度を創出した。そして、子育て支援員を育成するため、自治体において研修を実施することとしている。

子育て支援員研修事業の専門研修は、放課後児童コース、社会的養護コース、地域保育コース、地域子育て支援コースの4コース8分類がある。今年度、県・市・保育士養成機関が共同で開催している子育て支援員研修の地域保育コースは、154名が受講している。

本市で今年度から実施している子ども・子育て支援事業計画を着実に推進し、高知市版ネウボラ構想(※)を実現するためにも、子育て支援員はその担い手となる貴重な人材である。今後、県との連携をさらに強化し、ニーズに的確に対応した研修の実施に努め、子育て支援員を育成していく。

※ネウボラ＝福祉大国であるフインランドの子育て支援制度